

ヨー  
ク  
ピ  
ア

編集・発行

公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

発行日

2021年4月5日 258号

日本人 x 外国人 多文化共生のまちづくりを伝える

# ヨー ク ピ ア

2021年春号



外国につながる若者たちの居場所「Rainbow スペース」

YOKE の事業を一覧で紹介します

横浜市多文化共生総合相談センター Q&A 相談の現場から

横浜市多文化共生市民活動支援補助事業参加団体募集

 **公益財団法人 横浜市国際交流協会 (YOKE)**

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜

横浜国際協力センター 5階

TEL 045-222-1171 (代表) FAX 045-222-1187

E-mail yoke@yoke.or.jp

URL <https://www.yokeweb.com>



外国につながる若者たちの居場所

# Rainbowスペース

## 自身の経験を後輩のために

なか国際交流ラウンジの学習支援教室で学んだ「外国につながる若者たち」が中心になって立ち上げた運営委員会「にじいろ探険隊」とその居場所と活動場所である「Rainbow スペース」。2017年の活動開始以来、外国につながる若者たちが安心して過ごせる居場所づくりを中心に、自主的な活動や地域との連携活動を行っています。

1月の最終週、2月に公立高校の共通選抜テスト（以降、高校受験）を受ける中学生を対象とした面接練習会と、にじいろ探険隊メンバーが通う高校紹介が行われました。メンバーの経験を活かし、2月に高校受験を受ける外国につながる中学3年生を応援する企画です。参加者は中国語で高校受験やメンバーの体験談を聞くことができるほか、日本語を母語としない生徒たちのならではの視点で面接時の注意点やポイントを知ることができます。

また、メンバーが通っている学校紹介のコーナーも設けられました。先輩たちがどのような学校に通っているのか、どのような学校生活を送っているのかを直接聞くことができます。学校生活の他にも、日ごろ感じていることや悩んでいることなど、中国語で気軽に話すことができそうです。

この日は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で会場を訪問する生徒は少なかったため、にじいろ探険隊のメンバーは思い思いに過ごすことになりました。部屋の片隅で輪になって自習をする人、コーディネーターの林さんを囲んで日本語のエッセイを読む練習をする人、おしゃべりを楽しむ人と様々です。共通しているのは、誰もが縛られることなく、自主的にそして緩やかに過ごしていることでした。自分の母語で話すことができる、安心して居ることができる、仲間がいる、認めてもらうことができる Rainbow スペースは、外国につながる若者たちが目指す道へ前向きに進んでいく力をチャージできる場所でした。



Rainbow スペースのロゴマークが入った案内板  
メンバー OB による手づくりです



メンバーによって作成された当日のプログラム



私たちが通う学校を紹介します！



高校共通選抜面接練習 OB メンバーに母語で相談したりアドバイスをもらうことができます



自習をしたり、おしゃべりをしたり  
誰もが思い思いに過ごすことができる場所です



日本語のエッセイをみんなで音読中  
コーディネーターの林さんはみんなのお姉さんの存在

## コーディネーター林さんの思い

現在、Rainbow スペースのコーディネーターを務める林 錦園さんもなか国際交流ラウンジの学習支援教室に通っていた1人でした。日本の学校制度で中学生にあたる年齢のとき、日本で仕事をしていたお母さんと暮らすために来日し、公立中学校に入学しました。中学校で日本語を話すことができなかった当時の状況を「声を奪われ、手足を縛られた人形のようなだった」と林さんは振り返ります。そのような日々を過ごす林さんがたどり着いたのは、母語で安心して話すことができる、外国人である自分を認めてもらえる、仲間がいる、なか国際交流ラウンジの学習支援教室とそこで出会った人たちでした。林さんはその後も日本語、学業、日本での生活と様々なことで努力を重ね、高校、大学、大学院への進学を叶えました。学校やアルバイトを通して多くの人と出会いますが、「日本語が上手ですね」といった外国人としての一面だけを見られることも多く、自分の努力や苦労はなんだったのだろうと思い悩む日々を過ごしたと言います。

そのようなときに再び訪れたなか国際交流ラウンジで、今度は大学で学んだことを活かし「支援される側」から「支援する側」になる決意をします。「支援する側」としてラウンジに戻った林さんが出会ったのは、かつての林さんと同じ悩みや苦労を抱えている外国につながる子ども・若者たちでした。「彼らの姿を通して、私は自身の経験を思い返すことができます。私が苦労した経験は後輩たちを支える力になるかもしれません。かつて私は『なぜ日本でこんなに苦労しなければならないのか、様々なことを頑張ってもなぜ多くの人は外国人の一面だけを見るのか』とモヤモヤした気持ちを持っていました。Rainbow スペースでの支援活動を通して、私の経験が後輩たちに生かされることで、私自身も感じていたモヤモヤした気持ちが消えていきました。私も彼らに支えられています」と林さんは言います。そして Rainbows スペースの役割について次のように語ってくれました。

「帰属できる場所があることは幸せなことです。私も日本に来て12年経ちますが、Rainbow スペースの活動を経験して初めて住んでいるこの地の一員である実感することができました。そしてこの地域社会で暮らす私たちは、これまでに地域イベントで通訳ボランティアをしたり相互理解のために自分たちの声を伝えたりしてきました。それは私たちの社会的な役割であり、誰もが幸せに暮らせる多文化共生社会のために私たちができることです」。

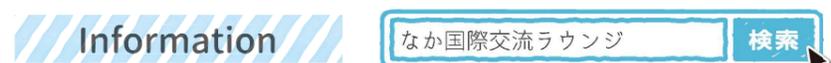


Rainbow スペースコーディネーター  
林 錦園 さん



日本は広い海みたい 私は広い海に浮かぶ船  
どこに向かっていくかわからない  
でも何か挑戦できるかもしれない これは漂流ではなく「探険」  
自分一人だけでは こここまで来ることはできなかった  
中区に来たこと 出会った人 努力したこと 全ては運命  
運命を受け止めた結果 私は使命を見つけた

## Rainbow スペースシンボルマークに込められた思い



外国につながる若者たちの居場所「Rainbow スペース」  
活動日時 毎月隔週月曜日 17:00～19:00 (変更することがあります)  
問合せ なか国際交流ラウンジ 電話 045-210-0667

## これまでの主な歩み

- ・「にじいろ探険隊」を結成 2017年12月
- ・運動会「にじいろ大合戦」開催 2018年8月
- ・小学生夏休み教室開催 2018・19・20年8月
- ・中区多文化フェスタで活動発表 2018年・19年9月
- ・防災訓練での通訳ボランティア 2018年・19年・20年11月
- ・餅つき大会で通訳ボランティア 2019年・20年1月
- ・夏祭り「3R」(Reduce, Reuse, Recycle) 啓発ブースを出展 2019年7月
- ・映画「向陽而生 私らしく生きること」を制作 2019年9月



- ・中国語版防火啓発動画を制作 2020年10月



- ・家庭防災員研修を受講 2020年11月



# 多文化共生のまちづくりを支援する事業

## 在住外国人の自立支援事業



### 横浜市多文化共生総合相談センター

11言語による電話や面談での相談、生活情報の提供を行っています。また、法律・在留・教育などの専門家による相談や、戸籍・住民票翻訳を実施しています。団体・機関等からの外国人や多文化共生に関する取組・事業・イベント・研修会等の企画など様々な相談にも対応しています。



### よこはま日本語学習支援センター

横浜での地域日本語教育の総合的な体制作りを進め、外国人住民の日本語習得支援環境を充実させていきます。



### 日本語学習コーディネーター

「日本語教室の運営」「就学前の子どもと親の支援」を中心に、よこはま日本語学習支援センターとともに日本語学習支援の充実を図ります。



### 国際交流ラウンジ連携

市内 11 国際交流ラウンジと連携し、多文化共生のまちづくりを推進しています。

<横浜市内にある国際交流ラウンジ>

- ・青葉国際交流ラウンジ
- ・いずみ多文化共生コーナー
- ・金沢国際交流ラウンジ
- ・港南国際交流ラウンジ
- ・港北国際交流ラウンジ
- ・都筑多文化・青少年交流プラザ
- ・鶴見国際交流ラウンジ
- ・なか国際交流ラウンジ
- ・ほどがや国際交流ラウンジ
- ・みどり国際交流ラウンジ
- ・みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ

## 学生会館課

### 横浜市国際学生会館運営

鶴見区にある横浜市国際学生会館には、横浜市内の大学等に通う留学生や研究者が住んでいます。学生会館に住む留学生と市民が交流するイベントや、留学生支援事業を行っています。



横浜市国際学生会館 (横浜市鶴見区)

### 多言語情報発信

横浜で暮らす外国人のみなさんにとって利便性がある情報を SNS などを通じて発信します。また、不特定多数の外国人のみなさんに有益な情報の翻訳に対応しています(有償)。

- ・facebook グループ
- ・横浜市多文化共生総合相談センター公式 LINE



### 多言語サポーター派遣・紹介

日本語を十分に話せない外国人等が区役所などで話をする時に通訳を派遣します。この制度は市民ボランティアに支えられています。



### 外国につながる子ども・若者支援

定住化が進む外国人の育ちから社会的な自立に至るまでを視野に、生活の質が高まるよう、ライフステージに応じた支援環境の充実を目指します。



### 国際交流情報提供

各媒体を通して、YOKE が行う事業の案内や多文化共生に関する情報を発信しています。

- ・ヨークピア
- ・YOKE facebook ページ
- ・YOKE メール配信



## 総務課

### 総務・経理

組織運営に関わる事務と経理処理に対応しています。YOKE および YOKE が受託運営するラウンジ、横浜市国際学生会館の環境整備や各部署のサポートを行なっています。

### 横浜国際協力センター運営

YOKE がある横浜国際協力センターには 7 つの機関・団体が入っています。国際機関の支援や連携事業の実施を通じて国際協力事業を横浜市と進めています。



## 国際協力・交流に関する施設を管理運営する事業



## 多文化共生推進課



みなとみらい事務所 (横浜市西区)

### 災害時の外国人支援

大規模地震が発生した時、YOKE は「横浜市外国人震災時情報センター」の設置・運営を行います。多言語での情報提供、通訳ボランティアの派遣、相談などに対応します。



### 国際交流ラウンジ運営

中区、南区、鶴見区からの委託を受け、地域の多文化共生の拠点として 3 つのラウンジを運営しています。



なか (横浜市中央区)    みなみ (横浜市南区)    鶴見 (横浜市鶴見区)

## グローバル人材育成支援課

## グローバル人材育成を支援する事業



### 地球市民プログラム

グローバルに行動できる青少年の育成

国際機関の協力を得て地球規模の課題を知り・学び・行動につなげる企画を小学生～青年層を対象に実施しています。

英語・スペイン語

外国語講座を開催しています。様々な文化背景を持つ講師陣による和気あいあいとしてアットホームな雰囲気のグループセッションです。



### 国際交流プラットフォーム

運営委員会 (YOKE など 5 団体) により、横浜で国際協力、国際交流、多文化共生、在住外国人支援に取組む NGO/NPO、国際機関、行政機関、学校、企業等の活動を紹介すると共に、団体同士が連携・ネットワークにより大規模なイベントやセミナーを開催します。

THE GLOBAL GOALS



## 私たちの事業を一覧で紹介します

公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE) は、外国人が暮らしやすく社会参画しやすいまちづくりに向け、「多文化共生のまちづくりを推進する事業」「グローバル人材の育成を支援する事業」「国際協力・国際交流に関する施設を管理運営する事業」を市民のみなさまと共に進めている横浜市の外郭団体です。私たちが行なっている事業を一覧でみなさまへご紹介します。

私たちは、国際都市横浜の歴史的・文化的特性を継承しつつ、異なる文化や価値観をともに認め、尊重し合える豊かな社会づくりを目指します。  
—YOKE ミッションステートメント—

## 横浜市多文化共生総合相談センター 相談の現場から



Q

私はペルー国籍で、日系2世です。「定住者」の在留資格で働いていましたが、新型コロナウイルスの影響で解雇されてしまいました。現在は失業保険を受給中です。在留期限が2か月後に迫っていますが、更新できるでしょうか。

A

解雇されたとのこと、今後のことがご不安のことと思います。在留期間更新については、失業保険で一定の収入があり、公的扶助を受けずに生活できることを証明できる書類を添付して申請するとよいでしょう。また、事情によっては公的扶助を受けていても更新できるケースもあります。具体的な書類等については、電話で「無料行政書士相談」を実施していますので、専門家に相談してみましょう。

生活が苦しい場合は、「生活福祉資金」を始めさまざまな支援があります。新型コロナウイルスの影響により、受けられる支援や措置もありますので、ぜひ積極的に活用してください。普段使わないような日本語での説明が多く、分かりづらいこともあると思いますので、お気軽にご相談ください。



横浜市多文化共生総合相談センターでは、外国人のみなさんからの質問に11言語で対応しています。  
お気軽にご連絡ください。 電話 045-222-1209

## 多文化共生の市民活動を助成します

横浜市国際局による「横浜市多文化共生市民活動支援補助事業」では、多文化共生による創造的社會を実現していくため、「来訪外国人のおもてなし促進」、「異文化理解の促進」、「在住外国人の活躍推進」に関する、市民団体やNPO法人の活動を支援しています。ただいま、令和3年度の事業を募集しています。

**募集期間：**令和3年3月26日(金)～5月7日(金)  
**補助金額：**10分の10補助(1件あたり上限100万円)  
**募集团体：**5団体程度  
**提出方法：**ホームページ掲載の申請書類を横浜市国際局へ郵送  
(〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10)

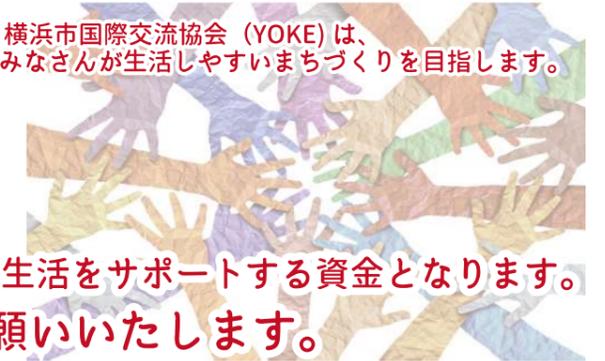


<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/kokusai/kyosei/tabunkahojokin.html>

申請の相談をすることもできます。お気軽にご連絡ください。  
横浜市国際局政策総務課  
電話 045-671-3826  
Eメール [ki-tabunka@city.yokohama.jp](mailto:ki-tabunka@city.yokohama.jp)



公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)は、在住外国人のみなさんが生活しやすいまちづくりを目指します。



皆様から寄せられた寄付金が、在住外国人の生活をサポートする資金となります。  
皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

寄付の際、支援事業を指定できます。

### 在住外国人への情報提供支援



横浜市の情報を多言語で発信することにより、在住外国人の生活支援と社会参加を促進しています。

### 外国人子ども教育支援



外国人の子どもたちの日本語学習や教科学習を支援します。

### 留学生支援



横浜市国際学生会館ではさまざまな国から多くの留学生を受入れ、日本で勉強や研究に励む留学生を支援しています。

### 国際交流・教育支援



「よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム」を立ち上げ、「SDGs 横浜シティ」を通じて市民の多文化理解や国際交流を支援しています。

ご指定がない場合は充当する事業を当協会にて選ばせていただきます。

（公財）横浜市国際交流協会への寄付は税控除の対象です。

YOKEは公益財団法人の認定を受けています。法人または個人が一定額以上の寄付をした場合、税法上の優遇措置を受けることができます。

寄付金額 1,000円/1口以上(金額は寄付者の方の任意です)。

情報誌の送付

1回に3,000円以上寄付くださった方へ、横浜市の国際交流に関する情報をご案内する「ヨークピア」(季刊)を1年間お届けします。

「ヨークピア」へお名前を掲載 了解をいただいた方のみ、ヨークピアにお名前を掲載させていただきます。

振込先(郵便振替)口座番号 00250-3-74434 加入者名 公益財団法人横浜市国際交流協会  
※手数料不要の振替用紙を送付します。問合せ先までご請求ください。

寄付に関する問合せ 公益財団法人横浜市国際交流協会 総務課 電話番号 045-222-1170

寄付をいただきました

金子 和子 様

寄付金は、ご指定いただきました事業に充当し、有効に活用させていただきます。本当にありがとうございました。